

1. さて、ある人が病気にかかっていた。ラザロといって、マリヤとその姉妹マルタとの村の出で、ベタニヤの人であった。このマリヤは、主に香油を塗り、髪の毛でその足をぬぐったマリヤであって、彼女の兄弟ラザロが病んでいたのである。(11:1-2)
 - a. ラザロについては聖書にあまり書かれていないが、この箇所以外でラザロという名が出てくるのはルカ 16 章の金持ちと貧乏人の話の中で、貧乏人の名がラザロである。その話では両者は共に死に、死後の世界を見る(ルカ 16:19-)。この2人のラザロは同一人物だと指摘する学者もいるが、その場合は聖書的な臨死体験の描写かもしれない。もし同一人物でないなら、それはおもしろい偶然であり、アブラハムがたとえ死人が戻って来て地獄の警告を与えても信じない人がいると預言した通り(27節-)、たとえ死人が蘇ってもイエスを信じない人がいるということを示している。
 - b. ラザロという名前の意味は「神が助ける者」で、彼は病気によって死んでしまうがイエスは死から蘇らせる。この物語は、イエスが霊的だけでなく肉体的にもいのちの創造者であること、臨時体験のような興味深いテーマ、イエスはよみがえりを意味すること、など色々な要素を含んでいる。
2. そこで姉妹たちは、イエスのところに使いを送って、言った。「主よ。ご覧ください。あなたが愛しておられる者が病気で、」イエスはこれを聞いて、言われた。「この病気は死で終わるだけのものではなく、神の栄光のためのものです。神の子がそれによって栄光を受けるためです。」(11:3-4)
 - a. イエスはただ楽観的な意味で「この病気は死で終わるだけのものでない」とおっしゃったのではない。イエスは父がおっしゃることのみを聞き、話されるのである(ヨハネ 12:49)。イエスのことばはただ表面的に安心させるような中身の無い約束ではなく、私たちが望みを置くことができるいのちであり真理である。
 - b. これは病気や死が神の栄光をあらわす機会となったまた別の事例である。盗人が盗み、殺し、滅ぼしに来ても、私たちが弱さを神にゆだねる時神はご自身の栄光のためにお使いになる。「わたしの力は、弱さのうちに完全に現れるからである。(2 コリント 12:9)」
3. イエスはマルタとその姉妹とラザロとを愛しておられた。そのようなわけで、イエスは、ラザロが病んでいることを聞かれたときも、そのおられた所になお二日とどまられた。その後、イエスは、「もう一度ユダヤに行こう」と弟子たちに言われた。(11:5-7)
 - a. イエスはこの家族を愛しておられたと書かれていることから、現実的に考えればラザロの病のことを聞いたらすぐにそちらに向かうだろうと思うのが普通である。ところがイエスはすぐには向かわず2日間もとどまっておられた。
 - b. イエスは父がおっしゃることのみを聞き話されるのと同様、「父がしておられることを見て行う(ヨハネ 5:19)以外のことはなさない。すぐにでも彼の友人のもとへ行きかけたであろうが、その時が来るまで従順にとどまられた。神の方法、考えは私たちのものと違うが、神のタイミングは常に完璧でその道はいつも良いものである。
4. 弟子たちはイエスに言った。「先生、たった今ユダヤ人たちが、あなたを石打ちにしようとしていたのに、またそこにおいでになるのですか。」イエスは答えられた。「昼間は十二時間あるでしょう。だれでも、昼間歩けば、つまづくことはありません。この世の光を見ているからです。」(11:8-10)
 - a. 弟子たちは殺されるかもしれないとユダヤに行くのを恐れた。しかしイエスは恐れる必要がないと教えられる。その教えは光と闇、昼と夜、歩くこととつまづくことのたとえで話される。
 - b. イエスの弟子として成長するにはここでイエスが何をおっしゃっているのかを理解する必要がある。イエスがこのような形で弟子たちに教えられるのはこれが初めてではないが、彼らはまだこの意味を理解していないようである。私たちが成熟するためには光の中を歩み、昼と夜を見分けられるようにならなくてはならない。
5. イエスは、このように話され、それから、弟子たちに言われた。「わたしたちの友ラザロは眠っています。しかし、わたしは彼を眠りからさましに行くのです。」そこで弟子たちはイエスに言った。「主よ。眠っているのなら、彼は助かるでしょう。」しかし、イエスはラザロの死のことを言われたのである。だが、彼らは眠った状態のことを言われたものと思った。そこで、イエスはそのとき、はっきりと彼らに言われた。「ラザロは死んだのです。わたしは、あなたがたのため、すなわちあなたがたが信じるためには、わたしがその場に居合わせなかったことを喜んでいますが、さあ、彼のところへ行きましょう。」(11:11-15)
 - a. この会話で見られるように、弟子たちはまだイエスが何をおっしゃっているのかわかっていない。イエスがわかりやすく話しておられるにもかかわらず、まだ混乱している。
 - b. 私たちが神との関係を成長させていく中で、神の声を聞くだけでなく、その意味を理解していくことが大切。聞いて従うことを学んでいかなければならない。